

金光功労賞・金光奨励賞について

岡山大学は、卒業生との絆を強固なものにし、卒業生からの応援を通じて、岡山大学の発展を促進することを目指しています。

その一環として、卒業生である故金光富男氏からいただいた寄付により、岡山大学学都基金「金光基金」を設立し、金光功労賞・金光奨励賞・金光賞を創設し、学生や同窓生の顕彰事業を実施しています。

故金光富男氏は、岡山大学法文学部の2期生として入学し、卒業後は事業家として成功し、岡山大学創立五十周年記念館である「金光ホール」の建設や法務研究科の新設に際しての寄付など、岡山大学や地域社会の発展に大きな貢献をされました。

岡山大学は、卒業生である故金光富男氏のご厚志に敬意を表し、金光功労賞・金光奨励賞・金光賞を創設し、卒業生や教職員の優秀な成果を顕彰することで、卒業生との絆を強めています。

金光功労賞・金光奨励賞授賞式は、令和6年11月2日（土）10時55分から岡山大学創立五十周年記念館金光ホールにおいて、岡山大学ホームカミングデイ2024に合わせて行います。卒業生の皆さまに直接お祝いされ、受賞者の功績が広く知られることとなります。今年度の受賞者および受賞理由は次のとおりです。

金光功労賞

「金光功労賞」は、本学や社会に貢献し、顕著な功績や善行のあった同窓生および教職員（退職者を含む。）を対象に選考を行い、顕彰するものです。

第7回 金光功労賞

佐藤 和広 様（岡山大学名誉教授・摂南大学教授）

佐藤和広氏は、岡山大学資源植物科学研究所教授及び大麦・野生植物資源研究センター長などを歴任し、令和6年3月に退職、岡山大学名誉教授の称号を授与され、現在は、摂南大学に教授として奉職されています。

同氏は、永年にわたりオオムギを素材にした遺伝育種科学の研究及び教育に努め、植物の育種（品種改良）についての基礎及び応用に関する多様な分野で成果を上げました。同人の研究内容は、オオムギを対象植物として遺伝育種科学のほぼすべての領域を個人で網羅しており、専門が細分化した現代の科学の中では世界的に見ても極めてまれな事例です。同氏の活動は、遺伝育種科学、植物遺伝資源学及び植物ゲノム科学の進展に尽くしたもので、その業績が評価されて、日本育種学会賞（平成24年）、日本醸造協会技術賞（平成29年）、日本農学賞、読売農学賞（令和4年）などが授与され、令和5年11月には、紫綬褒章が授与されました。

同氏の具体的な業績としては：①世界でも五指に数えられる岡山大学のオオムギコレクションの管理に関わる文部科学省ナショナルバイオリソースプロジェクトの課題管理者を務め、約2万系統のオオムギを管理し、国内外の研究者に毎年度約2千系統を配布して、学術及び応用研究の発展に貢献したこと。②起源地である中東からわが国に伝播したオオムギの由来及び祖先型の野生オオムギの多様性に関する知見と材料を得るため、十数カ国のオオムギ遺伝資源を調査、収集し、保存系統に加えたこと。③国際コンソーシアムの我が国代表として2012年にオオムギゲノム概要配列を公開し、さらに、オオムギコレクションの中から、世界中の野生及び栽培オオムギの多様性を含む20系統を選抜し、2020年におのおの高精度な染色体単位の塩基配列を構築したこと。④オオムギの栽培化にかかわる2つの脱粒性遺伝子、酸性土壌耐性にかかわる遺伝子、穂発芽耐性に関わる種子休眠性遺伝子などを遺伝学的に同定したこと。⑤サッポロビール株式会社との共同研究によって、ビール混濁の原因となるタンパク質の同定とDNAマ

一カーの作成、種子 1 粒から抽出した DNA でビール醸造品質を選抜する育種技術の開発、ビールの品質低下の原因となる酵素・リポキシゲナーゼのない系統の発見と長期間貯蔵してもビールの品質が劣化しない品種の開発などを行ったこと。⑥東日本大震災の津波による被災農地の環境を修復するため、塩害並びに湿害に強いビールオオムギの育種をすすめて、現地実証栽培を行い地ビール生産で産業振興したこと。⑦岡山県倉敷地域独自の醸造原料と製造装置の導入によって、障がい者就労によるビール醸造と地域振興に取り組んできたこと。などがあります。

これらの業績は、金光功労賞における「本学や社会に貢献し、教育・研究及び社会貢献・国際貢献の分野において顕著な功績のあった者」としての顕彰基準に合致しており、同氏は、金光功労賞の受賞者としてふさわしい個人です。

金光奨励賞

「金光奨励賞」は、本学や社会に貢献し、顕著な研究成果等を上げた同窓生又は教職員〔区分 1〕、他の教職員の模範となるような実践により特に顕著な成果を上げた同窓生又は教職員〔区分 2〕（いずれも団体を含む。）を対象として、設けられた顕彰制度です。

第 4 回金光奨励賞

IR/IE のあり方検討コア 〔区分 2〕（団体）

代表 松本 匡史 様（研究・イノベーション共創機構 主任 URA）

「IR/IEのあり方検討コア」では、本学の教職員の中から全学部署横断的にメンバーが集まり短期間で集中的に活発な議論と検討を進め、本学におけるIR機能、IE機能の現状・課題とあるべき姿を明確に整理し、提言としてまとめました。この提言に沿った施策として、「価値創造ナレッジマネジメントオフィス」の中核的役割を持ったIR機能「IRユニット」の設置や、IR活動の推進に必要な規程等の制定やツール等の導入につながりました。

提言は、①IRとIEの機能と役割の明確化、②推進体制や推進に必要な環境の構築、③IR、IEの推進体制の維持に向けたリソースの措置等、IR機能の実質化に資するものであり、これらの業績は、金光奨励賞における「他の教職員の模範となるような実践により特に顕著な成果を上げた団体」としての顕彰基準に合致しており、同団体は、金光奨励賞の受賞団体としてふさわしい団体です。

団体メンバー（所属、職名は当時）「IR/IE のあり方検討コア」メンバー

研究推進機構 主任 URA	松本 匡史※コア長	教育推進機構 教授 石田 衛
総務・企画部人事課 総括主査	影山 善弘	総務・企画部経営企画評価課 課長 本城 直樹
総務・企画部経営企画評価課 専門員	山崎 淳一郎	総務・企画部経営企画評価課 主任 今西 祐允
総務・企画部経営企画評価課 総括主査	山崎 浩一郎	財務部財務企画課 事務職員 福田 貴洋
学務部学務情報システム開発室 主査	田中 邦明	学務部学生支援課 総括主査 河田 敏豊
学務部入試課 課長	石田 達彦	研究協力部研究協力課 主任 松島 和季
情報統括センター事務室 専門員	岡田 俊明	

研究・イノベーション共創機構 〔区分 2〕（団体）

代表 山本 聖二 様（研究・イノベーション共創管理統括部研究協力課 専門員）

研究・イノベーション共創機構及び研究・イノベーション共創管理統括部では、国家戦略や地域の思いを先取りし、教職協働により、研究大学、研究ファーストとして研究力強化・イノベーション創出・社会貢献などの企画・立案・実施について積極的に活動しております。この度、その活動が実を結び、我が国全体の研究力の発展をけん引する研究大学群の形成を目的とする「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」（5年間最大 55 億円）及び共同研究

拠点・オープンイノベーションの創出等に必要な施設整備支援「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」(10億円)の採択につながりました。

このタスクフォースは、事務職員の高度化(高度専門マネジメント人材)のパイオニア、次世代へのロールモデルとして期待されるものです。これらの業績は、金光奨励賞における「他の教職員の模範となるような実践により特に顕著な成果を上げた団体」としての顕彰基準に合致しており、同団体は、金光奨励賞の受賞団体としてふさわしい団体です。

団体メンバー(所属、職名は当時)

研究・イノベーション共創管理統括部

研究協力課 専門員 山本 聖二 ※代表者
主任 松本 尊道 齋藤 智美 松島 和季 辻 あゆみ
課員 鳥津 美枝 嶋吉 秋穂
課長 河本 雅紀

産学連携課 専門員 吉田 昌彦 課長 阿部 純一

研究・イノベーション共創機構

主任 URA 宇根山 絵美(申請) 松本 匡史(IR)
副機構長 原田 大作(統括管理部長)

施設企画部 施設企画課 総括主査 西江 直子 課長 近藤 道広

【金光功労賞の顕彰基準】

本学や社会に貢献し、次に掲げる事項(分野)において顕著な功績や善行のあった者。

1. 教育・研究
2. 社会貢献・国際貢献
3. 文化・芸術・スポーツ
4. 医療福祉
5. その他

上記基準に基づき、同窓生にあつては Alumni(全学同窓会)会長又は各学部等同窓会会長、教職員(退職者を含む)にあつては本学役員又は各部局長が金光基金運営委員会委員長へ被顕彰候補者を推薦するものとする。

【金光奨励賞の顕彰基準】

顕彰を行う年度の4月1日時点において、原則として50歳未満の同窓生又は教職員(現職の者に限る)のうち、以下に該当する者。なお、団体の場合は、代表者に対して顕彰を行うため、代表者が前出の要件を満たしていること。

区分1: 本学や社会に貢献し、顕著な研究成果等を上げた者又は団体。

区分2: 他の教職員の模範となるような実践により特に顕著な成果を上げた者又は団体。

※ 研究成果等は、顕彰を行う年度の前の年度の実績とすること。

上記基準に基づき、Alumni(全学同窓会)会長、各学部等同窓会会長、本学役員又は各部局長が金光基金運営委員会委員長へ被顕彰候補者(団体)を推薦するものとする。